

書名：ペスト

著者：アルベール・カミュ

訳者：宮崎嶺雄

出版社：新潮社

出版年月：1969年10月

総ページ数：382ページ

ISBN：4102114033



推薦者

山下一夫

鳴門教育大学理事・副学長

学生の皆さんへのお勧めの本は何かと問われると、あれもこれとも思い浮かび、1冊をどれにするのか決めるのはむずかしい。

私の学生時代は、安部公房、大江健三郎、高橋和巳、河合隼雄、小此木啓吾の著作は、仲間内では必読書といってよいものであり、互いに感想を言い合ったものである。その中でも、私は、大江と河合の著作に没頭した。

大江の最高傑作は『個人的な体験』（新潮社、1964）であると思うが、私はその続編といえる『万延元年のフットボール』（講談社、1967）を臨床心理学の視点から論考し、卒業論文（「大江健三郎の小説におけるイメージについて」）として提出した。ところで、ある研究会において当時助手であった私が「アパシー青年の事例」について発表したとき、大江先生はわざわざ京都に来てくださり、河合先生と共にコメント役を引き受けてくださった。これら私の論文は、拙著『カウンセリングの知と心』（日本評論社、1994）に所収してある。

私は多くの恩師に恵まれてきたが、河合先生との出会いは私の人生を決定づけた。1971年に先生は京都大学に助教授として着任されたが、偶然、私もその年に大学に入学した。それ以来、私が1988年に鳴門教育大学の講師として着任するまで、学部生・大学院生・研究生・助手の長きにわたりご指導を受けた。

河合は新しい学問である臨床心理学を構築し発展させようと、数多くの著作を発表した。しかし、今の学生にとっては、あまりに多くの本があるゆえに何から読んでよいのか戸惑うのではないか。私も、『ユング心理学入門』（培風館、1967）、『コンプレックス』（岩波新書、1971）、『大人になることのむずかしさ』（岩波書店、1983）などなど、学生に読んでもらいたい河合の本が何冊もあり、1冊選ぶのに困惑している。そこで、拙論「河合隼雄を読む：これだけは読んでおきたい文献集」（『臨床心理学』43号、金剛出版、2008、所収）を参考にしてもらえれば幸いである。

小説や学術書だけでなく、児童文学、絵本、マンガ、映画などについても述べたかったが紙幅がついてきた。話を最初に戻し、推薦図書は1冊だけ選ぶとすれば、1947年にカミュが発表した『ペスト』である。友情、連帯、社会性、人間性について関心がある学生にお勧めである。私は大学生のときにこれを読んで、人生における一つの指針を得たし、今も指針となっている。とにかく、おもしろいと思うので読んでみて下さい。

